

12月2日にPTA役員3名の方と一緒に兵庫県公立高等学校PTA連合会研究大会に行ってきました。PTA活動については昨



今、参加の仕方や学校との関わりについて多くの学校で課題となっているようですが、PTAの学校、生徒への関わりについて実践報告も含め、勉強になりました。記念講演では、株式会社脳レボ代表取締役川谷潤太氏が来られ、「潜在能力の高め方～答えのない未来を生き抜く知恵とコツ～」というテーマで話をされました。どこかで聞いた



たことのある名前だと思っていたら、長田高校勤務時代に授業を担当したことのある生徒(当時)で、自己紹介文などを見てその成長ぶりに驚かされました。講演にも慣れているのか、最初からハイペースで会場の雰囲気をつかみ、一気に話の内容に引き込んでいました。以前から知られていることですが、脳神経細胞をうまく結びつけていくことが大切で、よくつながっている人でも10%くらいの活用しかなく、AIが人間の脳の8%くらいの活用率らしいので、この部分を鍛えることが大事になってくるそうです。そして、意識によって体はコントロールされているので、最初にマイ

ナスのイメージを持ってしまうとそうなるように体も反応し、うまくいかないことが多いということでした。すなわち成功しているイメージを常に持つこと、できると思うことで力を発揮することができるということです。当たり前のことですが、不安になると負けたらどうしよう、できなかつたらどうしようと思うことはよくあります。その時点で、負けることに意識が傾いており、その部分を切り替えていかなければうまく力を発揮することはできません。私も陸上競技部の顧問をしているときはできるだけその不安を払拭できるような声かけをしていましたが、要は本人自身がどのように意識していくか、試合当日までの心の準備ではないかと思っています。話の後半では、大事なこととして①先手力を高める②集中力を高めるということを強調されていました。①では常に未来志向で、未来のイメージをすること、例えば野球部なら甲子園に自分が出場しているイメージを持つことで、そこでプレーするために自分に必要なことが見つかってきますし、そうなるための動きが出てくるはずです。②では心を一つにするときにテニスボール2個を集中して積み上げることをした後、勉強や部活動に取り組むなどすると集中力が高まった状態で活動するので、やったことの身につき方が変わってくると言われています。私も「全国大会出場が目標の生徒には全国大会で3位になるイメージを、県大会出場が目標の生徒には近畿大会を目標に」と一つ高い目標を持つように言っていました。常に自分にもチャンスはあると思い続けていれば本当にそのチャンスが巡ってきたときにものにできるはずです。おそらくそういった内容の話がされたのかなと思いました。最後に、我々大人が子どもたちにできることとして①子ども一人ひとりの持つ不(不平、不満、不安など)の解決②家庭・学校・地域における心理的安全性(誰でも言い合える関係性)③親・先生・地域の方の笑顔と元気を挙げられていました。講演後、楽屋に挨拶に行くと私のことを覚えてくれていて、懐かしい話をする中で、モチベーションの上げ方、持続の仕方など同じような思考であることを確認できました。素晴らしい講演でした。

それぞれの学校のPTAの取組の中には、防災イベントを生徒主体で考えPTAがサポートするといった本校でも取り組んでいる内容を紹介している学校もありました。PTAの活動は本当に学校にとってはありがたいものです。強制されるものではありませんが活動に積極的に関わっていただければ、学校のことを知るチャンスもたくさんあります。是非多くの方に学校、生徒に関心を持っていただき活動に参加していただければと思っています。また、現PTAの皆様からは生徒への支援もしっかりといただいていますので、実践発表を聞きながら日頃のご協力に改めて感謝の気持ちが出てきました。本当にありがとうございます。

いよいよ期末考査も始まりました。準備はしっかりできていますか？復習と課題に追われている人が多いのではないかと思います。期限を守ることは社会人になっても当然のこととして必要になってきます。守らなければ信用問題にもなってきますので、期限・時間は守る習慣を身につけておきましょう。多くのことが個人に任せられ、声を上げることができるようになって、良い面もたくさん出てきましたが、「言ったもん勝ち」は良くありません。バランスや個人それぞれの状況をしっかり考えて行動できるように、疑問は解決して前に進めるようにしていきましょう。